



2027年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年8月6日

上場会社名 日本ルツボ株式会社

上場取引所 東

コード番号 5355 URL <https://www.rutsubo.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 西村 有司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長

(氏名) 岡本 聡

TEL 03-3443-5551

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	2,739	16.4	115	111.2	151	95.1	63	15.5
2026年3月期第1四半期	2,354	1.6	54	59.1	77	46.0	55	36.5

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 76百万円 (17.9%) 2026年3月期第1四半期 92百万円 (29.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	9.56	—
2026年3月期第1四半期	8.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年3月期第1四半期	12,103	6,158	50.9	926.56
2026年3月期	12,099	6,203	51.3	933.35

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 6,158百万円 2026年3月期 6,203百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	18.00	18.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	10,600	3.7	600	46.3	650	31.6	450	5.5	67.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年3月期1Q	7,045,200 株	2026年3月期	7,045,200 株
2027年3月期1Q	398,455 株	2026年3月期	398,455 株
2027年3月期1Q	6,646,745 株	2026年3月期1Q	6,646,745 株

期末自己株式数

期中平均株式数 (四半期累計)

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気の緩やかな回復が継続しました。先行きについては、各種の政策効果もあって景気の緩やかな回復が継続していくことが期待されますが、内外の政治・経済の動向や人手不足・賃上げ、物価高の影響などを十分に注視する必要があります。

当社グループを取り巻く関連業界におきましては、主要取引先である自動車関連産業は、足元で生産台数が前年比横ばいとなっており、また米国の通商政策や中東情勢など、先行き不透明な状況にあります。

鉄鋼産業は、粗鋼生産量の減少傾向が継続しております。

このような状況のなか、当社グループは営業と技術が一体となり、主力製品や新製品の拡販活動を積極的に推進してまいりました。この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は27億3千9百万円（前年同四半期比16.4%増）となりました。利益面では、営業利益は1億1千5百万円（前年同四半期比111.2%増）、経常利益は1億5千1百万円（前年同四半期比95.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、6千3百万円（前年同四半期比15.5%増）となりました。

①事業の分野別業績

鑄造事業は、主力製品の販売増加により、売上高11億7千1百万円（売上高比率42.8%）と前年同四半期比16.7%増加いたしました。

鉄鋼事業は、当社がメンテナンスを担当する高炉での受注減により、売上高2億3百万円（売上高比率7.4%）と前年同四半期比13.7%減少いたしました。

工業炉事業は、大型案件の進捗が寄与し、売上高4億3千4百万円（売上高比率15.9%）と前年同四半期比47.8%増加いたしました。

環境・工事事業は、民間焼却設備の受注増により、売上高7億5千7百万円（売上高比率27.6%）と前年同四半期比31.9%増加いたしました。

不動産事業は、売上高9千8百万円（売上高比率3.6%）と、ほぼ前年並み（前年同四半期比0.1%減）となりました。

塗料循環装置事業は、受注案件の納期の影響があり、売上高7千4百万円（売上高比率2.7%）と前年同四半期比49.5%減少いたしました。

②事業の種類別セグメントの業績

種類別セグメントの売上高は、耐火物事業の売上高は13億6千6百万円（売上高比率49.9%）と前年同四半期比10.7%増加し、営業利益は7千9百万円となりました。エンジニアリング事業の売上高は11億9千9百万円（売上高比率43.8%）と前年同四半期比37.5%増加し、営業利益は1億8千万円となりました。不動産事業の売上高は9千8百万円（売上高比率3.6%）と前年同四半期比0.1%減少し、営業利益は5千7百万円となりました。その他事業の売上高は、7千4百万円（売上高比率2.7%）と前年同四半期比49.5%減少し、2千1百万円の営業損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末比1億1百万円（1.4%）増加し、71億6千1百万円となりました。主として、現金及び預金の増加によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末比9千7百万円（1.9%）減少し、49億4千2百万円となりました。

これにより、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比3百万円（0.0%）増加し、121億3百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末比1億7千9百万円（4.7%）増加し、40億3千1百万円となりました。主として、短期借入金の増加によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末比1億3千1百万円（6.4%）減少し、19億1千3百万円となりました。主として、長期借入金の減少によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末比4千5百万円（0.7%）減少し、61億5千8百万円となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は50.9%（前連結会計年度末は51.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、業績予想を見直す必要が生じた場合は、速やかに開示する予定です。